

管理 No.202 【RPMI+BV 療法】

2015 年 1 月 4 日作成

疾患名：治療切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌 1クール：56日 総クール数：PDあるいはPS悪化まで可能な限り

1. 薬剤

抗癌剤一般名	商品名	標準投与量	投与日	用量規制毒性
レボホリナートカルシウム	レボホリナート	250 mg/m ²	Day1, 8, 15, 22, 29, 36	抗がん剤ではない 5-FUの抗腫瘍効果を増強
フルオロウラシル	5-FU	500 mg/m ²	Day1, 8, 15, 22, 29, 36	骨髄抑制(白血球減少)・下痢・口内炎
ペバシズマブ	アバステン	5 mg/kg	Day1, 15, 29, 43	

2. レジメン

投与日	Rp	投与方法	投与時間	使用薬剤名	標準投与量	備考
Day1, 8, 15, 22, 29, 36	1	点滴静注	120分	レボホリナート(25mg)(100mg) 生食 500mL	250 mg/m ²	
	2	急速点滴静注 (側管)	5分	5-FU(250mg/5mL) (1000mg/20mL) 生食 20mL	500 mg/m ²	Rp1の点滴開始から1時間後に投与
Day1, 15, 29, 43	3	点滴静注	90分 (備考欄 参照)	アバステン(100mg/4mL) (400mg/16mL)	5 mg/kg	初回投与時は必ず90分で投与、初回投与の忍容性が良好なら2回目は60分、2回目も良好ならそれ以降は30分で投与可能
				生食 100mL		

3. 初回投与基準

- (1) PS:0、1、(2)
- (2) 白血球数 $\geq 3500/\mu\text{L}$ 、血小板数 $\geq 10\text{万}/\mu\text{L}$
- (3) 貧血傾向なし (ヘモグロビン $\geq 9.0\text{g/dL}$)
- (4) 発熱、CRP上昇あるいは白血球増加($\geq 12000/\mu\text{L}$)の感染兆候なし
- (5) 総ビリルビン $< 20\text{mg/dL}$ 、AST・ALT $< 100\text{IU/L}$
- (6) 血清クレアチニン $< 1.1\text{mg/dl}$
- (7) 腸閉塞、下痢なし
- (8) 脳転移なし

4. 次クール開始基準 (2クール目以降、投与前日又は当日に下記条件を満たさない場合は延期する。下記以外は初回投与基準に準じる。)

- (1) 白血球数 $\geq 3000/\mu\text{L}$ 、血小板数 $\geq 7.5\text{万}/\mu\text{L}$
- (2) Grade3以上の肝機能障害なし
- (3) タンパク尿 $\leq 2\text{g/日}$
- (4) 出血なし
- (5) 総蛋白 $\geq 6.0\text{g/dL}$ 、アルブミン $\geq 3.0\text{g/dL}$

5. 減量・中止基準 (前クール投与後に下記のいずれかに該当した場合は減量する)

- (1) Grade4の血液毒性、Grade3の下痢(血便、脱水、電解質異常)が認められた場合には、投与を中止すること
- (2) アバステン中止基準
 - ① アバステンが原因と考えられる Grade3以上の過敏症
 - ② 消化管穿孔又は裂開が発現した場合
 - ③ Grade3以上の出血
 - ④ Grade1以上の喀血
 - ⑤ 静脈血栓症・塞栓症、動脈血栓症・塞栓症が発現した場合
 - ⑥ 薬剤でコントロールできない Grade3以上の高血圧
 - ⑦ Grade4以上のタンパク尿
 - ⑧ 可逆性後白質脳症候群が発現した場合、中枢神経障害の症状又は画像所見が認められた場合

6. 投与時の注意点

- (1) アジュバント治療、サードライン以降の治療には使用しないこと
- (2) 腹痛があった場合は消化管穿孔の可能性を考慮し、画像診断にて確認すること
- (3) 大きな手術の術創が治癒していない場合は投与しないこと。手術後の投与は術後最低でも4~6週間あけること
- (4) 消化管出血(下血・吐血)・粘膜出血(鼻出血、歯肉出血、腔出血)・肺出血(喀血)・脳出血に注意すること
- (5) 血圧の測定と尿蛋白の検査を定期的におこなうこと
- (6) 以前正常血圧であった場合で、Grade1の高血圧($> 150/100\text{mmHg}$)が発現した場合は降圧剤を使用する
(ACE阻害剤:エースコール等、ARB:ミカルディス等、Ca拮抗薬:アムロジピン等、利尿剤:ラシックス等)
- (7) 動脈血栓塞栓症(脳血管発作、心筋梗塞など)静脈血栓塞栓症(深部静脈血栓症、肺塞栓症など)の症状に注意すること
- (8) 血管外漏出に注意すること (潰瘍形成には至らないが局所での炎症を起こすことがある)